



北九州を見つめ，北九州を動かす ～「観光ビジネス」の授業実践～

福岡県立小倉商業高等学校
教諭 秦 陽子

1 はじめに

本校は、福岡県北部北九州市に位置し、関門海峡を超えると本州へすぐ移動できる九州最北の地にある。以前は、製鉄の町として八幡製鉄所を中心に栄えたが、平成17年に100万人を切ると人口減少が急速に進み、令和5年には92万人と全国でも人口減少率が上位である。北九州市は、人口100万人の復活を目指し、若者たちの人口の流出を止めるため、様々な取り組みを始めている。

本校は、創立107年を迎える歴史と伝統、そして地域とともに発展してきた県立学校であるため、地域で活躍する若者を育て、北九州の街づくりに貢献することが使命である。

2 商業科「観光ビジネス」の実施に向けて

令和4年度から年次進行で実施される高等学校学習指導要領（平成30年告示）を踏まえ、生徒の実態に合わせるとともに4学科1コースの特色をより色濃く出すためのカリキュラムへと改定した。1年生は商業に関する学科として、「ビジネス基礎」「簿記」「情報処理」の基礎科目や「総合的な探究の時間」を統一して学習し、2年生は各学科（総合ビジネス科2クラス・国際ビジネス科専門進学コース1クラス・国際ビジネス科1クラス・ビジネス情報科1クラス・会計ビジネス科1クラス）に分かれ、専門的な学習を通して探究活動や実践的な活動を行う。3年生「課題研究」では16コースから自分の興味・関心のある研究テーマを選択し、探究活動を深めていく。

そこで、今回の学習指導要領の目玉である「観光ビジネス」を2年国際ビジネス科で3単位履修

する大胆なカリキュラムを編成した。その理由は、上述したように北九州市の抱える人口減少問題や産業構造の変化に伴い、街が変遷の時を迎えており、今後観光産業はなくてはならないものになっていく。そこで、行政や企業、地域が抱える課題について学習し、解決のための活動にじっくり取り組むことが商業高校として地域に貢献できる一つの方法であると考えたからである。また、地域貢献活動の教育効果も高く、地域への愛情を育み、地域のために活躍する人材育成することは本校の学校教育目標でもある。

地域活性化・地域連携の重要性を生徒が実感した出来事として、令和4年4月と8月に発生した「旦過市場」の大火災がある。これまで、当たり前存在し100年以上親しまれてきた市民の台所が一夜にして消失し、街から賑わいも消えた。地元で育った高校生として何かできないかと生徒会発案のもと、全校生徒による募金活動を行った。微々たる支援ではあるが、高校生の活動が少しでも街の元気を取り戻す力となることを生徒は体験した。それから、地元の課題に目を向け、高校生の柔軟な発想と行動力で地元北九州市を盛り上げる活動が校内で広がり始めた。

現在、国際ビジネス科の「観光ビジネス」では、地域活性化に特化した課題解決に向けた探究活動を進めている。

3 「事例探究ワークブック 観光・地域活性化編」の活用方法

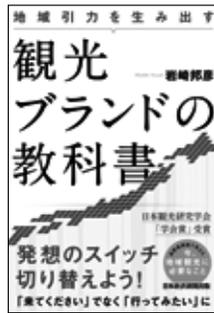
「観光ビジネス」は発展科目という位置付けであるため、令和5年度から使用できる教科書がな

かった。実教出版から出ている「事例探究ワークブック 観光・地域活性化編」は、唯一観光・地域活性化を取り扱っており、本校が進めていきたい観光に関する学習や地域活性化についての内容が合致していた。取り扱われている事例も取材に力を入れて制作されており、豊富であった。また、個人ワーク・グループワークが進めやすいように構成されていたため、授業構想が浮かびやすかったことが採用の決め手となった。

採用を決定したのち、教科書に代わる専門的な書籍を選定した。大学で使用するテキストは内容が難解であること、分量が多いことがネックであったが、高校生が読みやすく「観光ビジネス」の内容を理解しやすい「地域引力を生み出す観光ブランドの教科書（日本経済新聞社）」と併用することにした。

「事例探究ワークブック 観光・地域活性化編」は、テーマに沿った先進事例が取り上げられ、高校生にも分かりやすく表現され、構成されている。まず、そのテーマに関する調べ学習（個人ワーク）が設けてあり、インターネット等で調べることで初めて目にする語句や地域や企業の取り組みについて知ることができる。次に、調べた内容についてグループワークができる設問があり、個人で調べた内容や考えをシェアすることでさらに視点が広がり、話し合いを通してグループとしての意見をまとめる。

本校では、個人ワークとグループワークの設問を北九州バージョンに変換し、地域の課題として捉えられるように工夫している。



【事例1：伝統文化と異国文化が交わるお祭り】 →【個人ワーク】→【グループワーク】 小倉祇園太鼓で考える

1 時間目	①事例で紹介されているお祭りと抱えている課題を学習 ②個人ワーク：北九州市のお祭りについて調べる
2 時間目	③グループワーク：集客のための目玉イベントと担い手不足という課題解決のアイデアをまとめる ④発表用スライド作成
3 時間目	⑤グループ発表 ⑥教員によるフィードバック
4 時間目	⑦小テスト (Google Forms) ・レポート作成 (Google Docs)



【事例2：寺や城に泊まれる!?】 →【個人ワーク】→【グループワーク】 小倉城プランを考える

1 時間目	①宿坊、城泊を通して、宿泊させる経済効果（直接消費・間接消費）について学習 ②個人ワーク：全国の寺や神社が行っている宿泊以外の新しい取組について調べる－全体発表
2 時間目	③グループワーク：小倉城を宿泊場所として北九州の旅行プランを考える ④発表用スライド作成
3 時間目	⑤グループ発表・教員からの質疑 ⑥プランに対し、生徒が投票とコメントを行う（相互評価）
4 時間目	⑦教員によるフィードバック ⑧小テスト (Google Forms) ・レポート作成 (Google Docs)

教師側からの追加の資料提示として、事例に沿ったweb版の新聞記事やNHK ニュース動画などを授業時間以外に視聴するよう配信している。時間や空間の縛りに捉われず授業意外でもICTを活用した学びを深化させる仕掛け作りや生徒が主体的に学ぶことができる教材の提供をすることで、生徒は新しい知識を身に付け視野が広がっているのを実感している。

4 ICT 機器の活用

ICT 活用推進の目的について福岡県では、「5C を身に付けさせる『人財』育成は、生徒を自立し

た学習者として育成していく中において、各教科での指導をはじめ、学校のあらゆる場面で生徒主体の教育活動を通して実現させるものです。しかし、ICTはその実現を図るために活用を推進させるもので、教育活動においてICTを活用することは目的ではありません。あくまでもICTはツールであり、ICTを効果的に活用することで主体的・対話的で深い学びによる「授業改善」を図り、生徒自身が自ら判断してデジタル社会を生き抜くことができる「情報活用能力を育成」していくことがICT活用推進の目的です」と明記している。それを踏まえ、「観光ビジネス」でもう一つチャレンジしていることは、資料の提示や生徒のワークシートは全てChromebook（Googleアプリ）を使用し、ノートを使わない授業の実践である。ICTを活用した授業改善による学びの質の向上を狙いとし、生徒の学びのプロセスを多様化させる「個別最適化学び」と生徒が自分で考え対話を通じて理解を深める「協働的な学び」を実践している。

5C ～福岡県立学校が育成する「人財」～

- **Critical thinking**…情報を客観的かつ分析的に精査し吟味する力
- **Creative thinking**…学んだ知識や考えを生かした新たに創造する力
- **Communication**…他者を尊重し議論する力
- **Collaboration**…対話や協働を通じてアイデアを共有し、納得解を生み出す力
- **Contribution**…持続可能な社会の作り手となるために貢献していく力

5 「地域を見つめ 地域を動かす」イベントの企画・運営

「観光ビジネス」を学び始めて、北九州のためにできる地域活性化イベントを生徒が考案した。7月の七夕に向けて、本校の最寄り駅である北九州モノレール城野駅と小倉駅の一つ手前の平和通り駅に地域住民参加型七夕飾りを設置した。駅を利用する人が短冊に願い事を書けるように記載台を置き、設置した笹の葉に飾っていただくことで

街の賑わいを地域住民とともに演出しようという企画である。また、七夕にまつわる由来や歴史、短冊や飾りなどの意味についてポスターを作成し、掲示した。何気なく利用している駅も仕掛けをすることで愛着が湧き、写真にあるように小学生と高校生が繋がる。このような活動を続けていくことで、地域の良さに気付くとともに地域のために活動する若者の育成に繋がると考える。



6 「観光ビジネス」の学習による生徒の変容

試行錯誤しながら地域の課題や生徒の実態に合わせて授業を展開しているが、明らかに生徒の変容を見取ることができる。事例1の単位では、地元のお祭りについて個人で調べ、グループワークで課題を見つける作業を行った。解決のためのアイデアには、理想的なものばかりが挙げられ、現実的に実現可能であるかという視点が欠けていた。その内容は、自分たちで課題を解決するために実行するという前提がないまま自由に出された意見に留まるものであった。事例2でも小倉城を宿泊場所に設定した架空のプラン設定であったが、ターゲットが曖昧で小倉の有名なお店巡りになってしまっていた。マーケティングを学習している生徒がいるため、マーケティングの重要性を確認し、利用するお客様のイメージを持ってプランニングさせた。各班の発表ののち、実際に自分などのプランで旅行したいか相互評価させることで、他の班の課題を見つけることができた。このように、様々な活動を通して、地域の課題を自分たちの手で解決するという視点で意見が出るように変容してきている。

また、Chromebookでのワークを繰り返すことで、アプリの使い方やクラウドの仕組みを理解することができた。共同編集機能を活用したポスター作成を2度行ったが、作業の中でリーダー役の生徒が役割分担を行い、期限までに内容も充実した作品を仕上げることができた。与えられた問題を解く授業ではなく、事例をもとに自分たちで課題を解決する方法を考える授業では、回を重ねるごとに成長し生徒が学びに向かう姿を見ることができた。

令和5年7月24日には、韓国光州女子商業高等学校グローバルビジネス科の生徒が国際交流研修で本校を訪問した。その際、国際ビジネス科の生徒が交流会のプログラムを考えたり、準備の計画を立てたりと正課の授業外の取り組みであるが、自ら交流会への参加の意思表示を示し、主体的な行動が見られた。このことから、「観光ビジネス」の学習を通して以下のような生徒の変容が期待できる。

- ①観光とビジネスという視点を持つことで、自分の住む街への関心が高くなる
- ②課題を発見し、何かできることがないかを考え、解決に向かって行動する力が身に付く
- ③経験を通して、自分の成長のために主体的に行動できる

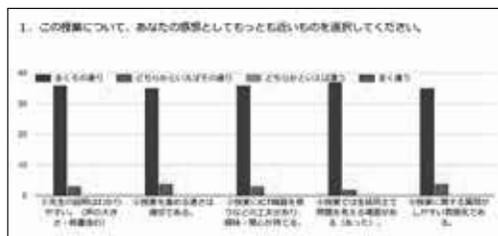
7 授業と評価の一体化

本校では、担当教員を2名配置し、単元ごとに担当を分けて授業を行っている。主として担当する教員は教材や資料等の準備、授業を実施する。もう一方の教員は、生徒の行動観察や制作物、発表に対するフィードバックを行う。その場でフィードバックすることで、生徒自身が改善点を理解し、次回に繋げることができている。単元の学習を進めていくごとに、ICT機器の操作、制

知識・技能	考査・小テスト
思考・判断・表現	個人ワークシート・グループワーク・プレゼンテーション・発表・制作物（ポスター等）
主体的に学習に取り組む態度	レポート・相互評価

作物の完成度、レポートの記述内容のレベルが向上している。そのため、より高度な課題の設定や内容を深めることができ、教員側の授業改善にも繋がっている。

1学期末に行った下記に示した授業アンケートの結果を見ても、生徒自身が新しいことを学び、勉強することの楽しさを実感していることが分かる。学習を通して、新しい視点を身に付け、地域の課題を「観光」「地域活性化」という点から見つけることができるのではないかと考える。



8 今後の展望

観光立国基本法では、観光は我が国の力強い経済を取り戻すための極めて重要な成長分野であり、世界の観光需要を取り込むことにより、地域活性化、雇用機会の増大などの効果を期待できる。そのため、地域が丸となって個性あふれる観光地域を作り上げ、活気にあふれた地域社会を築いていくことが観光立国には不可欠であると示されている（一部抜粋）。その一員として、高校生の視点でのアイデアは、貴重であるとともに大胆なものであるため、地域活性化のために貢献できる喜びを感じて、街づくりのために活躍できる力をもった生徒を育成していく。そのために、2学期以降は、地域の住民と企業を繋ぐ企画を考案し、実現させたい。生徒に企画書を作成させたり、企業のアポイントメントを取ったりして、生徒だけで進めていく段階へとステップアップしていく。さらに、2年生の学習を踏まえ3年生の「課題研究」では、個人や小グループで自ら設定したテーマを深く掘り下げた活動に深化させていきたい。